

## 第五章 就業及び居住に関する国際比較

吉村 英俊

### 1. はじめに

21世紀の知識情報社会にあつては、独創的な付加価値を絶えず生み出すことが求められており、都市（都市圏）が最小単位として機能しなければならない。そしてそのためには、付加価値を生み出す創造性豊かな人材を都市に集積させなければならない。アメリカの都市経済学者であるリチャード・フロリダは、「住む場所こそ、職業的成功や仕事上の人脈から、幸福感や快適な暮らしに至るまでの全てを決定するものであり、住む場所の選択は人生のあらゆる局面において重要性を増してきている<sup>5)</sup>」と、居住地の重要性を言及している。日本においても、これまで仕事・会社の生活に占める割合が物理的にも精神的にも大きかったが、昨今若年者を中心に変化してきている。

筆者は、これまでに創造的な人材のいかに地域に惹き付けるかといった観点から、幾つかの調査を国内の主要都市に居住する主に技術系会社員を対象に実施してきており、その結果、次のことが明らかになっている。

- a. 年代や職種、学歴などの属性によって、傾向は見出せるものの、それが著しく特異な傾向を示すものではない<sup>1)4)</sup>。
- b. 娯楽やショッピング施設の集積といった都市の活動的な要素よりも、安全・安心や住環境、教育環境といった堅実（手堅く）に暮らせる要素を重視している<sup>1)4)</sup>。
- c. 地元志向が強い<sup>2)</sup>。  
また海外の調査結果からは、次のことが示唆されている。
- d. 創造性を喚起するためには、地域にチャレンジ精神が醸成されていなければならない。言い換えれば、保守的かつ官僚的な地域に創造性は芽生えない<sup>3)</sup>。
- e. Quality of Life を享受できるところに、創造的な人材は集まる<sup>3)</sup>。

### 2. 調査研究の目的

本稿では「人が仕事・会社と居住地の関係について、どのように重きをおいているのか」、日本、アメリカ、イタリアの人々にアンケート調査を行い、それぞれの地域の傾向（類似性、異質性）を見出すこととした。設問は次のとおりである。

Q1: 仕事・会社と居住地のどちらが重要か

Q2: 仕事・会社を選択するとき、何を重視するか

Q3: 居住地を選択するとき、何を重視するか

なお、アメリカについては、前述のリチャード・フロリダがアメリカでは居住地を極めて重視していると言っており、それを検証したい。またイタリアについては、創造都市として名高いボローニャ及びその周辺地域の意向を確認するとともに、成熟社会であるヨーロッパの現状を、イタリアを通して見てみたい。

### 3. 調査結果

#### (1) 調査方法

筆者の先行研究によれば、被験者の属性によるバラツキは小さい（前述）ことから、調査はヒアリング調査<sup>3)</sup>の応対者及び筆者の友人・知人に依頼し、調査票（章末参照）を事前に配布の上、紙もしくは電子データで回収した。調査要領は次表のとおりである。

表5-1 調査要領

	実施時期	実施都市	回収数
日本	2009.12	北九州	38
アメリカ	2009. 7～8	ロサンゼルス	33
イタリア	2008. 9～10	ボローニャ、モデナ、アンツィオ	30

#### (2) 回答者の属性

実施地域によって、性別、年代、職業のいずれに対してもバラツキがある。日本においては、男性、40代、経営者が多く、アメリカにおいては60歳以上の実年、イタリアについては事務職が多いのが特徴である。

##### ①性別

（上段：度数、下段：占有率）

	男	女
日本	31 81.6	7 18.4
アメリカ	14 43.8	18 56.3
イタリア	15 50.0	15 50.0

##### ②年代

（上段：度数、下段：占有率）

	20代	30代	40代	50代	60歳以上
日本	5 13.2	8 21.1	13 34.2	7 18.4	5 13.2
アメリカ	2 6.5	3 9.7	7 22.6	6 19.4	13 41.9
イタリア	7 23.3	6 20.0	8 26.7	8 26.7	1 3.3

##### ③職業

（上段：度数、下段：占有率）

	技術者	研究者	企画	デザイン	作業員	事務	管理職	経営者	主婦	学生	その他
日本	4 10.8	0 0.0	1 2.7	0 0.0	3 8.1	8 21.6	1 2.7	14 37.8	1 2.7	1 2.7	4 10.8
アメリカ	1 3.0	0 0.0	0 0.0	1 3.0	1 3.0	9 27.3	4 12.1	4 12.1	4 12.1	1 3.0	8 24.2
イタリア	1 3.6	3 10.7	0 0.0	0 0.0	1 3.6	13 46.4	4 14.3	0 0.0	0 0.0	4 14.3	2 7.1

### (3) 仕事・会社と居住地のどちらが重要か

各国ともに、仕事・会社と居住地が「同じくらい重要」である割合が最も多く、その占有率に大きな差異はない（日本 45%、アメリカ 52%、イタリア 53%）。

残り約半数の回答者が、仕事・会社もしくは居住地のどちらかが重要であると回答している中で、とくに日本の回答者が仕事・会社を重視している（26%）。一方、アメリカの回答者においては、居住地を重視（45%）しており、仕事・会社を重視している回答者は1名（3%）しかいない。まさにリチャード・フロリダが言うところの「住む場所の選択が人生のあらゆる局面において重要性を増してきている」<sup>5)</sup>を裏付ける結果となっている。なお、イタリアは仕事・会社を重視している割合が日本よりもやや少ないが、概ね日本と同様の傾向を示している。

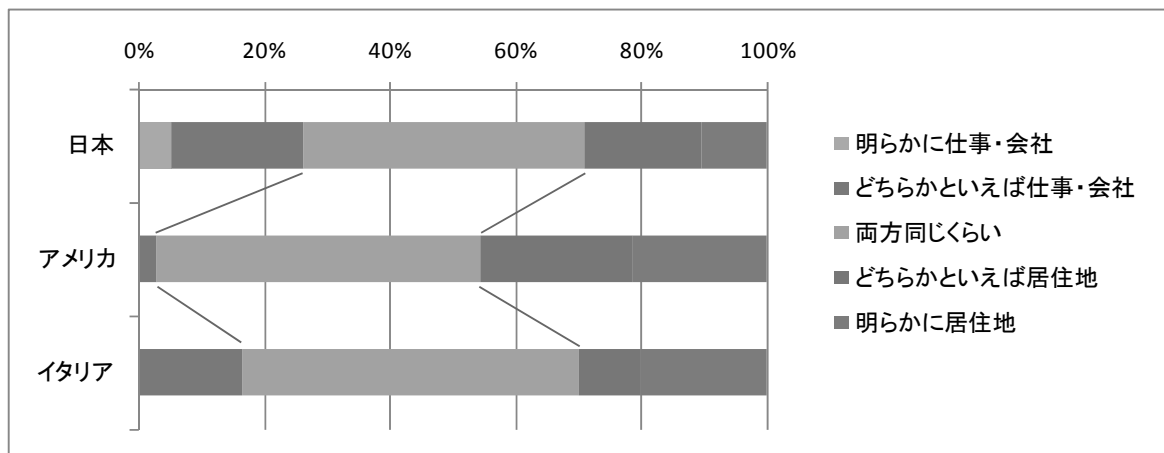


図5-1 仕事・会社と居住地のどちらが重要か

表5-2 仕事・会社と居住地のどちらが重要か

		明らかに仕事・会社	どちらかといえば仕事・会社	両方同じくらい	どちらかといえば居住地	明らかに居住地	合計
日本	度数	2	8	17	7	4	38
	占有率	5.3	21.1	44.7	18.4	10.5	100.0
アメリカ	度数	0	1	17	8	7	33
	占有率	0.0	3.0	51.5	24.2	21.2	100.0
イタリア	度数	0	5	16	3	6	30
	占有率	0.0	16.7	53.3	10.0	20.0	100.0

### (4) 仕事・会社を選択するときの評価要素

仕事・会社を選択するとき、こういった要素を評価するのか。筆者の先行研究<sup>1)2)</sup>では、働く目的のマジョリティは収入を得て豊かな生活を営むといった経済的なものであるが、クリエイティブな人材を中心に自己の成長や能力発揮といった自己実現も比較的多い。

ここでは、これら傾向に国によって差異がないか、見てみるものである。その結果、日本の方がやや自己実現志向が強く、経済的な要素を重視しないものの、概してイタリアと傾向が似ている。一方、

アメリカにおいては、給与や賞与、労働条件といった経済的な要素への拘りが強く、反面、仕事の内容への関心が低いという傾向が顕著に表れている。

また、日本においては、地元へ執着する傾向がある<sup>1)2)</sup>ことから、会社の立地場所についての関心の程度を見てみると、アメリカ及びイタリアにおいても、地元への関心は比較的高いものの、自然環境が良いところに企業が立地していることを好むことが分かる。なお、いずれの国においても、同業者が集積するところを選択する回答はなかった。なお、日本の地元への執着の強さは異常なものを感じる。

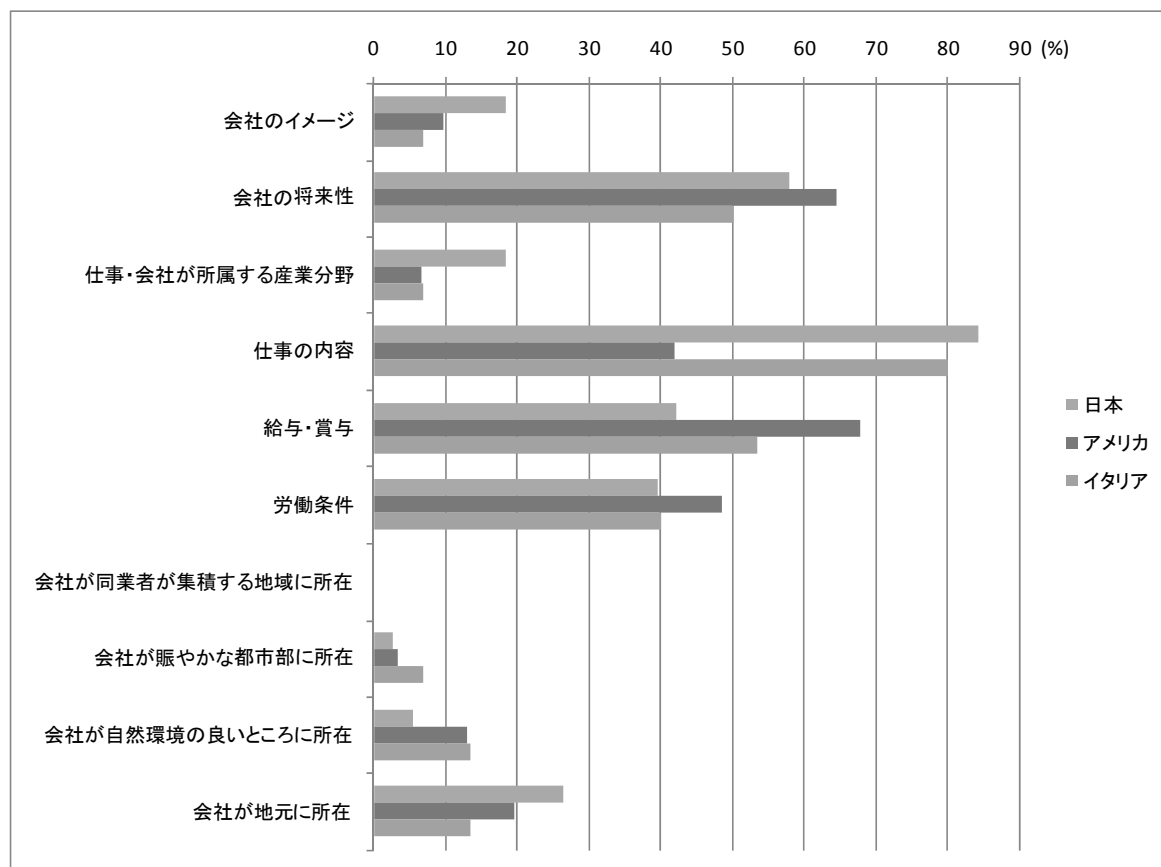
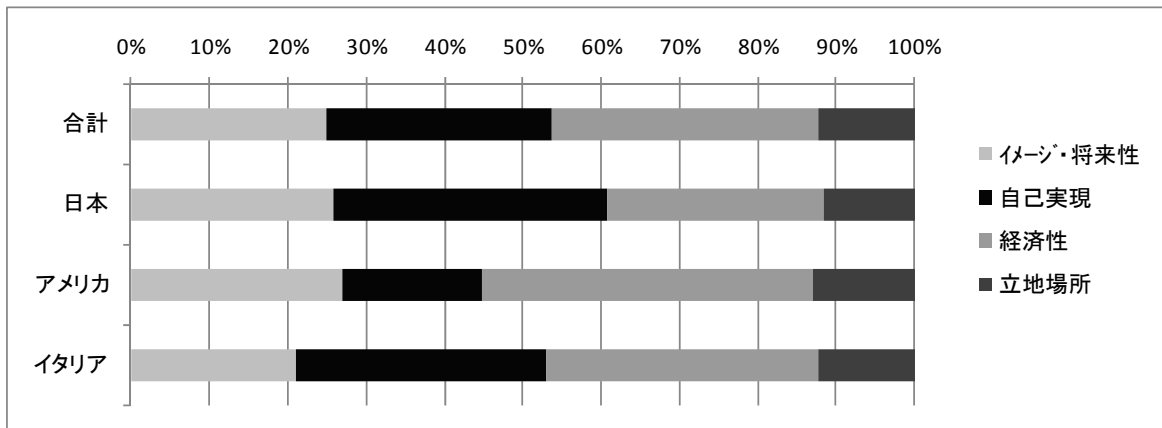


図5-2 仕事・会社選択時の評価要素 (3つまで選択)

表5-3 仕事・会社選択時の評価要素 (3つまで選択)

		会社のイメージ	会社の将来性	産業分野	仕事の内容	給与賞与	労働条件	会社の所在地			
								産地	都市部	自然	地元
日本	度数	7	22	7	32	16	15	0	1	2	10
	占有率	18.4	57.9	18.4	84.2	42.1	39.5	0.0	2.6	5.3	26.3
アメリカ	度数	3	20	2	13	21	15	0	1	4	6
	占有率	9.7	64.5	6.5	41.9	67.7	48.4	0.0	3.2	12.9	19.4
イタリア	度数	2	15	2	24	16	12	0	2	4	4
	占有率	6.7	50.0	6.7	80.0	53.3	40.0	0.0	6.7	13.3	13.3



注) 自己実現：会社が所属する産業分野、仕事の内容

経済性：給与・賞与、労働条件（福利厚生、有給休暇、残業など）

図5-3 自己実現か、それとも経済性か（図5-2を加工）

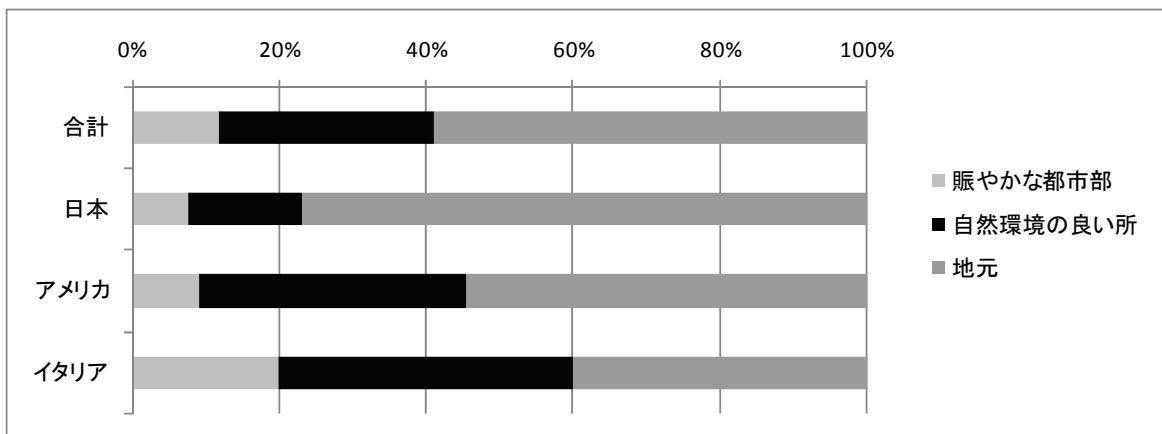


図5-4 企業の立地場所（図5-2を加工）

### (5) 居住地を選択するときの評価要素

居住地を選択するときの志向は、筆者の先行研究<sup>2)</sup>によれば、回答者の属性にかかわらず、商業施設の集積による街なかの賑わいといった活動的な要素よりも、安全や安心といった平穩に暮らすことができる要素を評価している。この傾向は、アメリカやイタリアにおいても同様であるが、イタリアが他の2国に比べて活動的な要素を高く評価している。また、前項の仕事・会社選択時の評価では、日本はイタリアと類似していたが、居住地においては、日本はアメリカが同じ傾向を示している（図5-6）。

イタリアが、活動的な要素において特異な傾向を示していることから、この要素の内訳を見てみると、3つの国にそれぞれ特徴があることが分かる。まず、日本は都市のイメージを強く意識している。次に、アメリカは文化施設を重視する反面、娯楽を評価していない。最後に、イタリアはアメリカ同様に文化施設を重視しており、日本とは逆に都市イメージを軽視している。日本が他の2国と異なるのは、文化施設の評価が低いことと、都市イメージの評価が著しく高いことであり、これは日本の文化的成熟度が未だ発展途上にあることの表れではないかと考えられる（図5-7）。

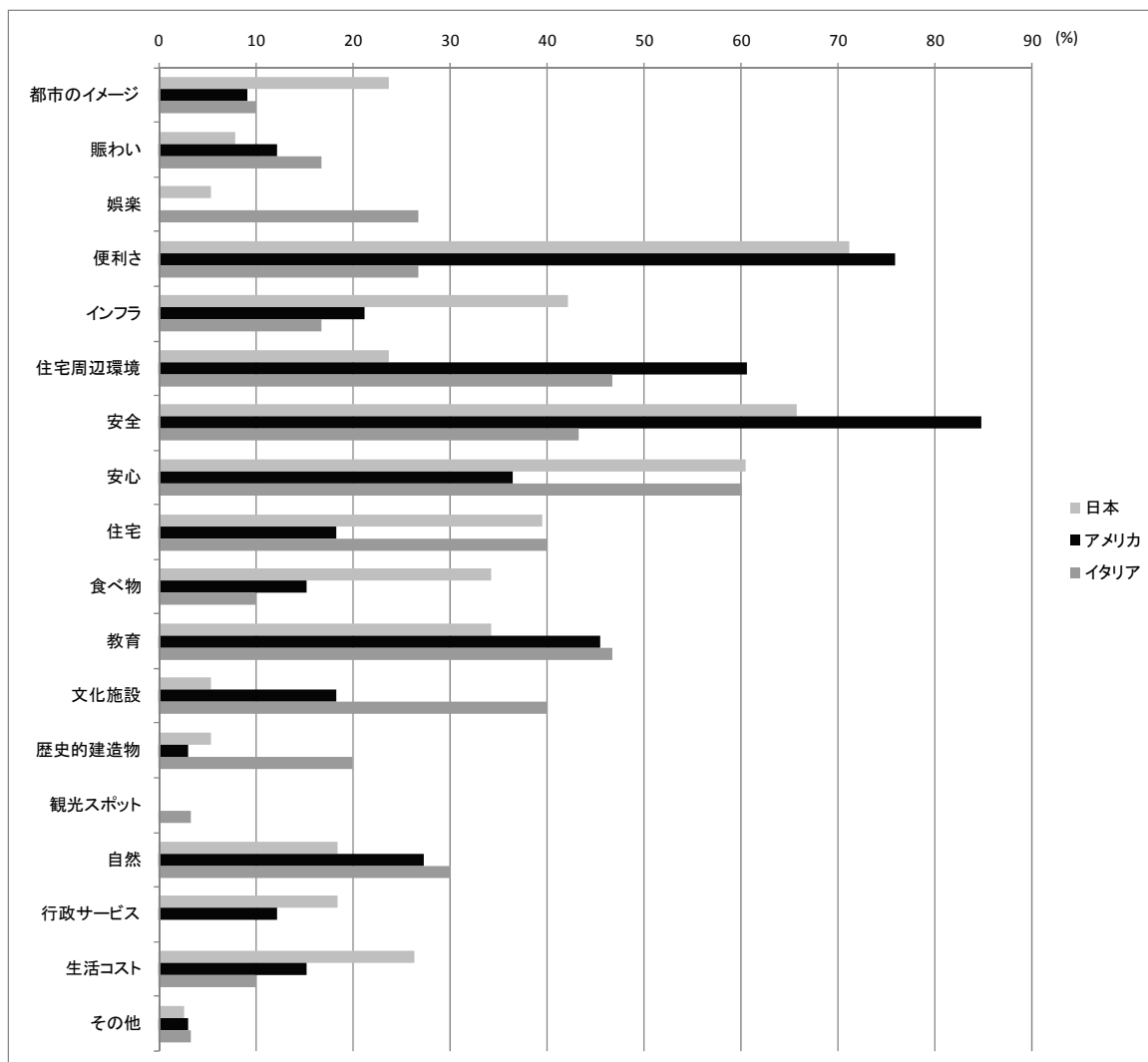


図5-5 居住地選択時の評価要素（5つまで選択）

表5-4 居住地選択時の評価要素（5つまで選択）

		イメージ	賑わい	娯楽	便利さ	インフラ	住宅周辺環境	安全	安心
日本	度数	9	3	2	27	16	9	25	23
	占有率	23.7	7.9	5.3	71.1	42.1	23.7	65.8	60.5
アメリカ	度数	3	4	0	25	7	20	28	12
	占有率	9.1	12.1	0.0	75.8	21.2	60.6	84.8	36.4
イタリア	度数	3	5	8	8	5	14	13	18
	占有率	10.0	16.7	26.7	26.7	16.7	46.7	43.3	60.0
住宅	食べ物	教育	文化施設	歴史的建造物	観光スポット	自然	行政サービス	生活コスト	その他
15	13	13	2	2	0	7	7	10	1
39.5	34.2	34.2	5.3	5.3	0.0	18.4	18.4	26.3	2.6
6	5	15	6	1	0	9	4	5	1
18.2	15.2	45.5	18.2	3.0	0.0	27.3	12.1	12.1	3.0
12	3	14	12	6	1	9	0	3	1
40.0	10.0	46.7	40.0	20.0	3.3	30.0	0.0	10.0	3.3

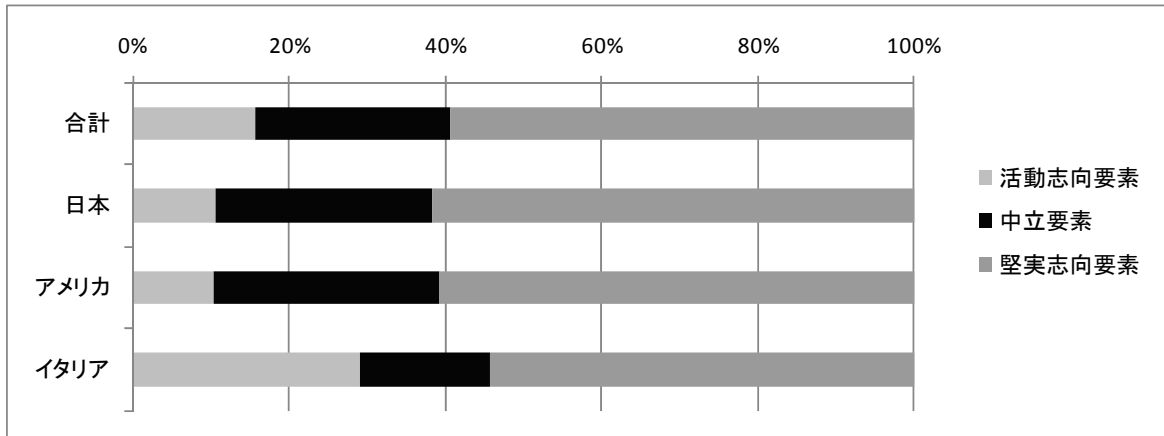


図5-6 活動志向か、それとも堅実志向か (図●-●を加工)

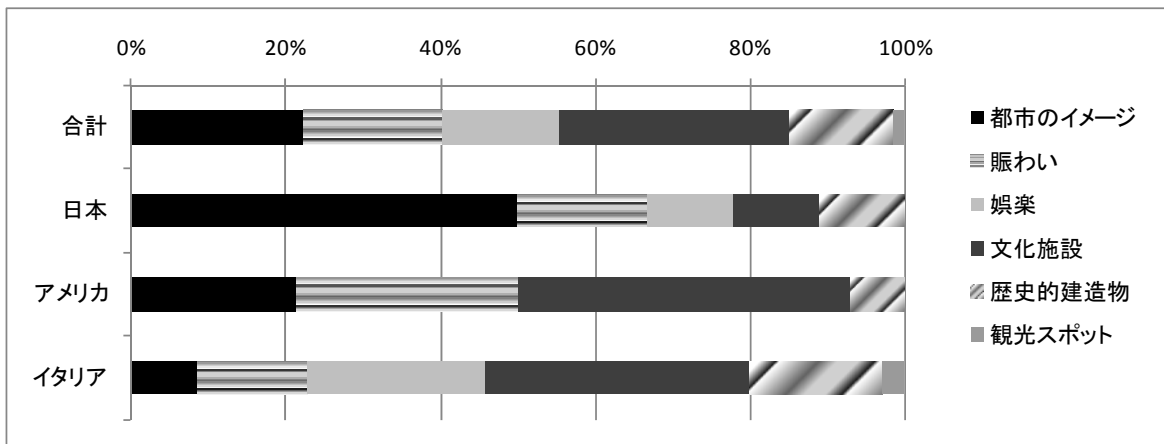


図5-7 活動志向の内訳 (図●-●を加工)

一方、堅実的な要素について見てみると、日本は他の2国に比べて、インフラと生活コストを重視するが、公園や道路といった住宅周辺の環境を軽視していることが分かる。次にアメリカは、回答者が住むロサンゼルス土地柄からか、安全を重視し、住宅を軽視している。最後に、イタリアは行政サービスや生活コストの評価が低く、暮らしやすいのか、それとも期待していないのか、分からない。

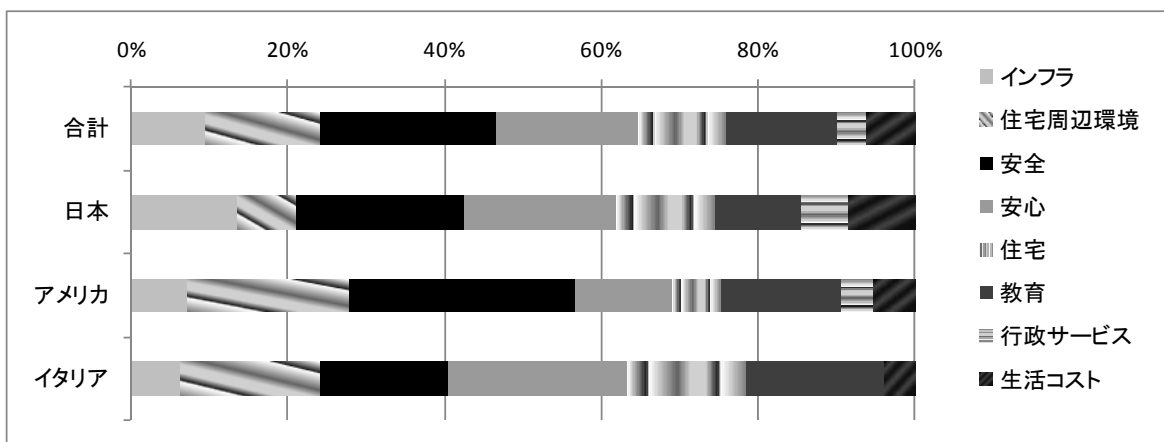


図5-8 堅実志向の内訳 (図●-●を加工)

#### 4. 調査結果のまとめ

以上の調査結果を整理してみると、日本は他の2国に比べて、仕事・会社を重視し、インフラや生活コストなど着実に生活できる基盤が整備されていることを好むことが分かる。また地元志向が強いといえる。次にアメリカについては、居住地を重視すること、また仕事・会社ではその内容よりも給与や労働条件といった経済的な要素を重視している。最後にイタリアについては、文化施設や歴史的建造物など、創造性の源泉となるべき要素を重視している。

本来ならば、数量化Ⅲ類などの分析手法を用いて分析しなければならないところであるが、三国の位置づけを強引に図示してみると、図5-9のようになる。なお日本においては、都市基盤は概ね整備されてきており、今後はこれまでの物質面における充足から、文化や芸術といった精神面の充実を満たす方向へ人々の欲求が変化してくるものと予想され、文化施設など文化面の要素を重要視するようになると思われる。また日本の場合、まずは仕事・会社を優先し、さらに勤務地が地元であればより良いと考えており、アメリカのように居住地を仕事・会社よりも優先するものではない。

表5-5 調査結果のまとめ

	仕事・会社か、居住地か	仕事・会社選択時の評価要素	居住地選択時の評価要素
日本	・三国の中では最も仕事・会社志向	・仕事の内容 ・会社が地元で立地	・都市イメージ ・インフラ&生活コスト
アメリカ	・居住地志向 (仕事・会社志向が弱い)	・経済性(給与・賞与、労働条件) (仕事の内容への関心が低い)	・文化施設(娯楽を評価しない) ・安全&住宅周辺環境
イタリア		・仕事の内容	・文化施設&歴史的建造物 (都市イメージを軽視) ・娯楽
共通	・両方とも重要が半数を占有	・会社の将来性	・観光スポットを軽視

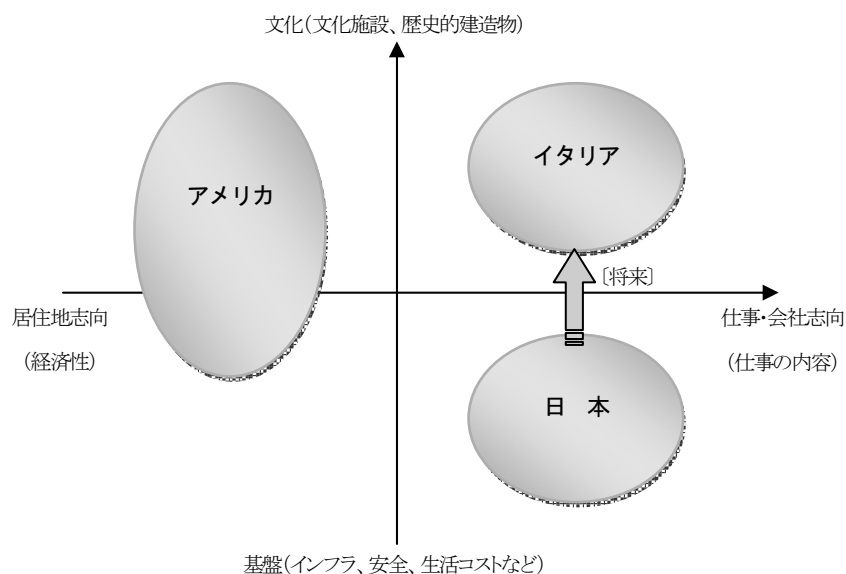


図5-9 各国のポジション



## 5. 結論

調査結果より、各国のクリエイティブな人材を惹き付けるための方途を示唆したい。

日本においては、まず「都市イメージ」を重視することから、例えば、勤務地が青山や百道浜にあると、何となく友人などに自慢できるように、居住地や勤務地のブランディングが必要である。北九州学術研究都市であるならば、北九州という名前ではブランディングは難しく、技術分野で優位性を浸透させる方が賢明である。具体的には、環境・エネルギー分野で先進的なイメージを浸透させ、比較優位な状況をつくるのがよいと思われる。何をもって差別化するかが重要であり、あれもできます、これもできますは、逆に都市のブランドイメージを希薄化させる。次に「地元」への執着が強いことから、成長が期待される企業を誘致し、大都市在住者へUターンを呼び掛ける。クリエイティブな人材を惹き付けるためには、生産工場ではなく、研究開発機能を有した事業所を誘致することが不可欠であり。その場合、自然科学系の大学及び研究機関の集積や産学連携の支援体制が地域に備わっていることが重要である。

アメリカ人は、三国の中では最も肩肘をはらずに、人生を愉しんでいる感がうかがえる。人々は安全で、文化度が高く、将来性がある企業が立地している地域に住みたいと思っていることから、まずは平穏に暮らせる住環境を整備し、次いで優良企業を立地させることが必要である。

イタリアにおいては、文化・芸術に気軽に接する環境を整え、さらに彼ら・彼女らが創造性を発揮できる企業を立地させることが必要である。

最後に主観的ではあるが、今回調査の三国の都市住民の成熟度は、イタリア、アメリカ、日本の順になっているものと思われる。マラソンでいえば、第一集団がイタリアやドイツ、フランスなどのEU西側先進諸国、第二集団の先頭をアメリカ、そして日本は今第三集団から第二集団へ上がってきたとしているところにあると想像できる。なお第三集団ではアジアや南米の国々がしのぎを削っている。

こういった序列にあって、日本が今後発展し、また欧米から有能な人材を惹き付けるために必要なものは、偏に「文化」であり、施設やソフトを充実させ、文化成熟度を向上させることが欠かせないと考える。

## 参考文献

- (1) 吉村英俊「働き方とライフスタイル」『2007年度産業経済プロジェクト 知的創造都市“Creative City”の形成・促進に関する研究』北九州市立大学都市政策研究所、2008.3
- (2) 吉村英俊「技術系会社員の就業意識及び居住志向に関する調査研究」『地域課題研究』北九州市立大学都市政策研究所、2009.3
- (3) 吉村英俊「第三のイタリア“ボローニャ&モデナ”にみる創造都市形成の示唆」『地域課題研究』北九州市立大学都市政策研究所、2009.3
- (4) 吉村英俊「イノベーションを担う人材が評価する都市の特性・機能」日本都市学会年報2008VOL.42、2009.5
- (5) Florida, R., *Who's Your City?*, Basic Books, 2008 (井口典夫『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社、2009)

## 仕事と居住地に関するアンケート調査

問1 あなたは“仕事・会社”と“居住地”のどちらが重要ですか。(1つだけ)

- ①明らかに仕事・会社の方が重要
- ②どちらかといえば仕事・会社の方が重要
- ③両方同じくらい重要
- ④どちらかといえば居住地の方が重要
- ⑤明らかに居住地の方が重要

問2 あなたは“仕事・会社”を選ぶとき、何を重視しますか。(3つまで)

- ①会社のイメージ
- ②会社の将来性(例えば:安定性、成長性など)
- ③仕事・会社が所属する産業分野(例えば:半導体、環境・エネルギーなど)
- ④仕事の内容(あなたが興味のある仕事か?)
- ⑤給与・賞与
- ⑥労働条件(例えば:福利厚生、有給休暇、残業など)
- ⑦会社が、同業者が多く集積する地域に所在している
- ⑧会社が、にぎやかな都市部に所在している
- ⑨会社が、自然環境の良いところに所在している
- ⑩会社が、地元にある
- ⑪その他

問3 あなたは“居住地”を選ぶとき、何を重視しますか。(5つまで)

- ①都市のイメージがよく、友人などに自分が住んでいる街を誇れる
- ②おしゃれな店やレストランなどが集積し、買い物客などで賑わっている
- ③コンサート、スポーツイベントなどが盛んで、ナイトライフも充実している
- ④スーパーマーケットや銀行などが充足し、公共交通機関も整備されている
- ⑤上下水道やゴミ処理などのライフラインがしっかりしている
- ⑥公園や道路などがきちんと維持されている
- ⑦犯罪や災害、交通事故が少なく、安全である
- ⑧医療施設や保育施設が充実しており、安心して暮らせる
- ⑨住宅を比較的安く、利便性や自然環境が良いところに取得もしくは賃貸できる
- ⑩豊富で新鮮な食べ物を安く手に入れることができる
- ⑪教育水準が高く、いじめや暴力がない
- ⑫図書館や美術館などが充実している
- ⑬歴史的建造物が集積している
- ⑭観光スポットが集積している
- ⑮自然が豊かである
- ⑯行政サービスが充実している
- ⑰生活コストが安い
- ⑱その他

*Which is more important, job/company or living-place?*

**Q1. Which is more important, job/company or living-place? (only one).**

- 1) Job/company is absolutely more important than living-place
- 2) Job/company is a little bit more important than living-place
- 3) Both is equally important
- 4) Living-place is a little bit more important than job/company
- 5) Living-place is absolutely more important than job/company

**Q2. Which is the most important when you choose a job/company? (up to three).**

- 1) Company image
- 2) The future of the company; stability, growth and so on
- 3) Type of industries, for instance semiconductor, environment, energy and so on
- 4) Contents of the job, for instance a job which you are interested in
- 5) Salary
- 6) Working conditions, for instance welfare program, paid holiday, overtime work and so on
- 7) Location 1; the area with a cluster of similar industries
- 8) Location 2: vibrant urban area
- 9) Location 3: beautiful environment
- 10) Location 4: your hometown
- 11) Others

**Q3. Which is the most important when you choose a residence? (up to five).**

- 1) Image; you can make a boast of your city to your friends
- 2) Liveliness; lots of stylish shops, restaurants and so on
- 3) Amusements; lots of music-concerts and sport-events, full night life
- 4) Convenience; enough supermarkets and banks, full public transportation systems
- 5) Infrastructure; full water-works, sewage, waste-treatment and so on
- 6) Cleanness; full maintenance of parks, roads and so on
- 7) Safety; few crime, disaster and traffic-accidents
- 8) Public services; clinics, hospitals, nursing homes and so on
- 9) Residence; you can own or rent it with ease
- 10) Foods; availability, variety, quality
- 11) Education; high education level, no bullying and violence
- 12) Learning opportunities; lots of libraries, museums and so on
- 13) History; lots of landmark architectures
- 14) Tourist-attractions and resorts;
- 15) Beautiful Environment;
- 16) Good administrative services by means of local governments
- 17) Low living-cost
- 18) Others